

## 護衛艦「てるづき」体験航海で出港時の艦橋を見学



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、7月9日（火）、神奈川県横浜須賀町から同横浜市区間で行われた「海上自衛隊護衛艦てるづき体験航海」に参加者を引率した。

これは、同艦が若者に海上自衛隊及び護衛艦に対する認識と理解を深めてもらうと実施したもの。静岡からは、海上自衛隊に興味を持つ静岡地本「しずぼんファンクラブ」の会員2人が参加した。

出発地となった海上自衛隊横須賀基地は、あいにく小雨が降り、強風が吹く「梅雨寒」であったが、参加者は寒さに負けず意気揚々と乗艦した。

最初は、艦内統制機能が集まっている「艦橋」で出港時の号令を出す自衛官の様子などを見学。出港時の艦橋内の様子を見学できることはめったになく、貴重な体験となった。参加者からは「らっぱをはじめ、女性自衛官の凛とした号令や報告時の姿がかっこよく、こういうところで艦艇の規律や航海の安全が保たれていると感じた」との声があった。

また、同艦後方の格納庫内には、参加者のために防寒用毛布が用意され、参加者は「自衛隊の毛布を始めて触りました。自衛隊に入ったらこの大きな毛布ですばやくベッドメイキングをするんですね」と入隊後の生活に思いを馳せていた。

静岡地本は、今後も自衛官の働く姿を実際に見てもらい自衛隊の任務や活動に対する理解促進を図るとともに、自衛官を目指す多くの優秀な若者の手助けを実施していく。

## 市民総参加のイベントに自衛隊も参加



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、7月14日（日）、焼津市大井川港で行われた「第19回踊夏祭」において広報活動を実施した。

この祭りは「踊りがまちを揺らす！踊りがまちを変える！」を合言葉に、地元の子供たちや団体が踊りを披露し競い合うイベントで、朝から大勢の来場者がつめかけた。

海上自衛隊からも水中処分母船3号（神奈川県横浜須賀町）が大井川港に入港し、その目の前に静岡地本が広報ブースと採用制度説明ブースを開設した。幅広い世代に大人気の中型トラックや偵察用バイクを展示し、集まった市民らが自衛官の制服や迷彩服を試着して、展示車両をバックに記念撮影をするなど大人気となった。

一方、水中処分母船3号は一般公開を行い、家族連れなど1340人が乗船。見学者たちは、海自独特の船内の様子や、EODと呼ばれる水中で活動するダイバーの特殊な装備品などに興味を抱いていた。

また、自衛官を志す高校生や大学生などを対象に、同船の特別公開も実施。参加した9人は、船を操舵する船橋や乗員の食事を作る調理室、乗員が航海中に使用する寝室や浴場といった船内の特別な環境も見学し、それぞれが自分が自衛官になった姿を具体的にイメージできた様子だった。

さらに、参加者たちには同船調理員特製の海上自衛隊カレーが準備され、自分で皿に盛り付けると、乗員と一緒にテーブルにつき、自衛官の生活や仕事について質問しながら、笑顔でカレーを頬張っていた。

静岡地本は、今後もイベントに積極的に参加して地域を盛り上げる手助けをすると同時に、自衛隊をPRするなどして、自衛官の活動に理解を深めてもらえるよう努めていく。